
転生したら銀火竜！

0シュウト0

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

転生したら銀火竜！

【コード】

N6896Z

【作者名】

0シユウト0

【あらすじ】

転生物です。主人公は言葉が話せる銀火竜！？

始章

その出会いは、必然だったのかもしれない。

とある王宮

「…なんじゃこれ」

火竜のゆで卵を食べようとした王女の卵に勝手にひびが入っていく。

「プー！」

卵を砕いて現れたるは白銀の火竜の雛だった。

「妾の卵が…」

新たな生命の誕生、しかしそんな事は関係なしに怒りを露わにする。

「消えてしまえッ！」

「ぴゅいー!?!」

火竜の雛を掴むと王女は窓から投げ捨てた。

まだ飛べない雛はそのまま落下していく。

「ビュイ！」

落ちた先には馬車の荷台があり、その馬車は今、走り始めた。

「ピュイ？」

幼き火竜の子を乗せたまま。

転生したら銀火竜！

始章

「あら…？？」

雪が降る、とある村。少女は鳥のような白銀の生き物を見つける。

「いま、あたためてあげるねっ」

少女はそれを抱えて自宅へと入るのだった、

第一章 転生後人間恐怖症

「…なんじゃこれ」

俺の目の前にはぶっさいくながきんちよがいた。

なんでこんなことになったかは時間を遡ることになる…

主人公視点

「知らない世界だ。」

「君は死にました、なので転生させます。オツケー？」

んで目の前に知らないお姉さんがいる。

…なんで無限航路のチェルシーの服着てんの？しかも青年編…

そういえば同じマンションの真上に住んでいた零治、いまだに無限

航路はまっつたな。休みだから久々にカルバライヤルト頑張るっ
ていつてたな

どうでもいつか

「んでなんで死んだの俺？」

…なんかお姉さんがビクツとした、

…これあれか。こいつのミスで死んだとかそうゆうのか。

「そ、それはな、実はとある人物の魂を異界へと引き吊り込むため
にゲーム機を爆破させたのだが…その真下にいたお前さんが巻き込
まれて、下敷きにされたのだ。」

「なるほどなるほど…ってそれ零治の事かあああ！」

つかこいつすげえ事いったぞ！？

ゲーム機爆破って…

「す。すまん。妾も無限航路が大好きでな。ネットの小説で憑依物
があつたため、いまだに熱心にやっている零治を殺してユーリの代
わりにしたのだ。そしたら結構面白くてな。」

…暴君かこいつ…

「あれ、結構死亡フラグ満載じゃないか…せめてチートな戦艦とか
ステータスカンスト状態とかしてやれよ」

「！」

それだ！とばかりに感心する。

…ってなにもなしに送り出したのかよ！？

そしておれはブチギレながらエルメラードのようなチート空母と色々ステータスが上限いつてる設定にさせる事に成功した。
零治、感謝しろよ？

閑話休題

「さて、お前さんも好きなゲームのような世界に送り込んでやろう。どこがいい？ギルティギアか？リリカルなのはか？ガンダムか？それとも遊戯王か？」

悩むなあ…

「…もちろん俺もチート能力貰えるよな？」

「もちろんさあ」

キラッ とさせんな！

「キラッ」

口で言うなああああ！

「おし！ならモンハンだ！もちろんチートな存在でだ！」

「もちろんさあ」

所々教祖ネタいれんな！俺知らないんだよ…おおお！？

俺は突然足元に開いた穴に落下していった。

「じゃ。人外って事でリオレウスね、暇つぶしゲット」

…ってちょっとまってえええ！？

そして時間は戻る。

目の前にいるがきんちよ。

どうやらマジで俺はリオレウスに転生されたようだが…いきなり食われる直前じゃないか？

「プー」

とりあえず一鳴き

「妾の卵が…」

かたかた震えるがきんちよ

…なんか嫌な予感が…

「消えてしまえッ！」

「ピュイー！？」

このがきんちよ。まだ頭に卵を被った俺を掴むと窓から投げ捨てた。

いや生まれたばっかだから飛べないっばい！？

つか雪降ってる！？マジで？！

「ビュイ！」

なにか荷車つぽいところに落下した俺

…つかさむ…

つかいきなり投げ捨てるなんて人間怖…蜥蜴もこんな思いしてたの
かなあ

「ピュイ？」

突然振動を感じると景色が移動していった。

いや荷台が移動してるのか？

寝たら死んじやうかなあ…

と思いながら俺は瞳を閉じた。

…ざわざわと騒ぐ声で目を覚ますと知らない男がこっちみていた。

「なんで火竜の雛が…」

「ピュ？」

「い、生きてる!？」

男は俺を掴むと雪の積もった地面に叩きつけた。

「ピュ?!」

いてえ! すぐえいてえ!!

チート能力はどこいったあああ!?

「こいつ…! はやく…!」

叩きつけた男は俺を何度も踏みつけた。

「ピュ…ひゅ…」

踏まれるたびに妙な声をあげる。

「けぶっ」

あ、血吐いた。

「ん? あ、なにしてやがる!？」

「あ、親方。いや火竜が乗ってましたんでね、討伐を」

「ばっかやろう! 雛殺したら親が怒り狂うだろうが! この村に泊まるのはやめだ。バレる前に逃げるぞ!」

「へ、へい！」

荷台が離れる音を聞きながら俺は意識を失った。

side out

第三者side

「…」

荷台を引く馬車が去るのを鍛冶屋の一角見ていた少女
彼女はその場に歩いていく。

「あら…？」

少女は意識を失った銀火竜に駆け寄った。

それを抱き抱えると

「あたたためてあげるねっ！」

鍛冶屋へと入っていった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6896z/>

転生したら銀火竜！

2011年12月24日09時53分発行